

■北星学園大・札幌学院大合同チームが残り45秒で逆転。春季オープン戦第2日

北海道学生アメリカンフットボール連盟加盟校の春季オープン戦は第2日の6月19日、札幌学院大グラウンドで、北星学園大・札幌学院大合同チームー東京農業大戦が行われ、北星学園大のQB中手龍一（3年、札幌静修高）が試合終了45秒前に逆転のTDパスを決め、33-28のシーソーゲームを制した。第3日の6月26日は、第46回スズランボウルとして札幌市円山陸上競技場で、北星学園大・札幌学院大ー釧路公立大（午前10時開始）、東京農業大ー室蘭工業大（午後1時開始）の2試合を行う。

25-28と3点差を追う北星学園大は、第4Q残り4分1秒で攻撃権を得ると、自陣29ヤードからドライブを開始した。この日が実戦2試合目というQB中手が、WR中田大翔（2年、北星大付属高）へ制球の良いパスを立て続けに投じて3回の第1ダウン更新に成功。最後は敵陣8ヤードからの攻撃で、相手DB陣の隙間に走り込んだWR中田へ鮮やかなTDパスを通した。2点を狙ったPATも、QB中手が相手DLに追いかけられながらもパスを決め、33-28とした。



試合はめまぐるしい点の取り合いになった。北星学園大・札幌学院大が第1Q、北星学園大主将のOL/LB鈴木諒（4年）が54ヤードのファンブルリターンTDで先制、1分後にはQB中手のTDパスでリードを広げた。東京農業大はその直後にRB神田健心（2年、旭川農業高）の1ヤードダイブで追い上げて13-7、第2Q早々にはQB金井康晴（3年、神奈川・舞岡高）の10ヤードキープで14-13と逆転した。しかし北星学園大・札幌学院大も、続く攻撃シリーズでWR中田が55ヤードTDキャッチを決めて再逆転。東京農業大も前半最後のプレーでKも兼ねるQBが24ヤードFGを決めて19-17で折り返した。

後半も取り合いが続いた。第3Q、東京農業大のQB金井が40ヤードのFGを蹴り込んで4度目の逆転に成功すると、北星学園大・札幌学院大もWR中田が30ヤードTDキャッチを決めて25-20と5度目の逆転。勝負の第4Q、東京農業大は残り4分でQB金井のパスを、WR戸田省吾（2年、東京・関東国際高）がエンドゾーンで相手DBと競り合いながらTDキャッチし、28-25と6度目の逆転を果たしたが、残る4分を守り切れなかった。



北星学園大の池田伊織HCは「中手は2試合目だが自信を持ってプレーできた。6人入部した1年生も試合を経験し、秋に使える選手も見つかった」と収穫を挙げた。殊勲のQB中手は「去年の北海学園大戦では1点も取れなかったが、今日は勝って良かった。最後のシリーズでは気持ちが折れることなくプレーできた。チームみんなの自信になったと思う」と秋を見据えた。また惜敗した東京農業大のQB金井は「ランは出たが、パスを通しきれなかった。1部校は取るべきところを取り、守るべきところを守る。秋に向けて、これを体験できたことは大きい」と巻き返しを決意した。